

地域医療連携だより

# えん

発行日：令和5年6月 発行所：富山赤十字病院 富山市牛島本町2丁目1番58 TEL. 433-2492 発行責任者：時光 善温

## 小児アレルギーセンターを開設しました

小児アレルギーセンター長 足立 雄一

当院に「小児アレルギーセンター」が開設されるにあたり、本年4月1日に富山大学から異動しました足立雄一です。国民の2人に1人が何らかのアレルギー疾患を持つとされ、平成27年からアレルギー疾患対策基本法が施行されている様々な取り組みが行われていますが、その効果は十分でなく、先日の国会でも花粉症が大きく取り上げられていました。小児アレルギー・呼吸器疾患の診療・教育・研究に大学で長年従事してきた経験を活かして、当センターではエビデンスに基づいたきめ細かな診療を心がけています。具体的には図のように、食物アレルギーでは必要に応じて経口負荷試験を実施して「必要最小限の食事制限を基本とした食事指導」を栄養士と共に進めています。また、呼吸機能や呼気一酸化窒素濃度など「客観的な指標に基づいた喘息管理」と共に、喘息のコントロールに影響するアレルギー性鼻炎や花粉症に対して「舌下免疫療法など積極的なアプローチ」をしています。そして、食物アレルギーの予後に影響するアトピー性皮膚炎には「年齢に応じたスキンケア指導」を実践しています。



アレルギー疾患の多くは軽症ですが、中等症以上になると食事を含めた丁寧な生活指導や服薬指導が必要となります。当院では、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師などのコメディカルと共にチームで診療にあたっていますので、お困りの症例がありましたら、ぜひご紹介いただければ幸いです。

### 小児アレルギーセンターでの主な診療内容

#### 食物アレルギー、消化管アレルギー

診断（プリックテスト、血液検査）  
経口食物負荷試験  
食事指導  
栄養指導

#### 気管支喘息

診断（プリックテスト、血液検査）  
呼吸機能検査（スパイロ、FeNOなど）  
長期管理（吸入指導を含め）  
生物学的製剤

#### アトピー性皮膚炎

診断（プリックテスト、血液検査）  
スキンケア  
全身療法（生物学的製剤、内服薬）  
重症患者の入院対応

#### アレルギー性鼻炎・結膜炎、花粉症

診断（プリックテスト、血液検査）  
点鼻指導  
舌下免疫療法  
生物学的製剤

#### アナフィラキシー

発症時対応に関する患者指導  
エピペン®の処方と指導

#### その他

慢性蕁麻疹、薬物アレルギー  
慢性咳嗽、いびき、睡眠時無呼吸など

- 患者さん向け情報発信（スキンケア、食物栄養指導、アレルギー発症予防など）
- スタッフ向けe-learning

## 第82回地域医療連携の会

令和5年5月17日(水)午後7時より、富山赤十字病院教育研修棟3階講堂において「第82回地域医療連携の会」が開催されました。開業医の先生25名、当院医師、看護師、コメディカルを含め総勢70名の参加がありました。

呼吸器・アレルギー内科部長 市川智巳医師より「気管支喘息の診療」、第2産婦人科部長 高橋裕医師より「生殖補助技術を用いた不妊治療症例」、第1循環器内科部長 賀来文治医師より「富山赤十字病院における循環器診療の現状 ～地域医療に貢献するために～」の演題で発表があり、質疑応答や意見交換が行われました。



### 気管支喘息の診療



#### 呼吸器・アレルギー内科部長 市川 智巳

気管支喘息は、間欠的な気管支痙攣により喘鳴や呼吸困難などの症状を呈する多様性のある気道疾患です。喘息の管理目標は、症状の制御と、将来の有害事象の回避の2点になります。[1,2]

講演では、紹介患者さんを取り上げながら、(1)喘息の治療は(A)アセスメント (B)ベーシックな非薬物治療 (C)併存症管理 (D)薬物治療のABCDで構成されること[3,4]、(2)悪誘引回避は強力な治療法となること、(3)COPD患者の吸入ステロイドは喘息合併と好酸球の多い人に行うことが推奨されることの3点を中心にお話しさせていただきました。

質問を頂戴した内容から3点の簡単な解答を記載します。

数多い喘息治療薬を1つ覚えるとすれば、シェアも大きいシムビコート(SMART含む)、レルベアのいずれかからと考えます。[1,5,6,7]

運動療法は、フレイル、サルコペニア対策として提唱される、有酸素運動とレジスタンス運動(いわゆる筋トレ)の療法を取り入れ、運動時間は1日30分程度以上、週2から3回行い、栄養介入を合せるという内容が、第一目標としては妥当です。[8]

SpO<sub>2</sub>が軽度低下するCOPD患者さんでの酸素療法は、成果が一定せずエビデンスの形成すら困難です。[9]

#### 参考文献と要旨

1. Porsbjerg C, et. al. *Lancet*. 2023 Mar 11;401(10379):858-873. 全般的な総説
2. 新実彰男. 内科 2023 Feb 20;112:128. 総会教育講演の要旨
3. Lommatzsch M, et. al. *Lancet Respir Med*. 2023 Jan 27;5:2213-2600(22):00490-8. A2BCDという診療のプロセスについて
4. 松本久子. 内科 2023 Apr 10;112(4):693-699. 難治性喘息と生物学的製剤について
5. The Global Strategy for Asthma Management and Prevention. GINA2023 main report. <https://ginasthma.org/reports/> 世界で広く参照される喘息のガイドライン
6. 日経メディカル 2021 Jul 10; <https://bit.ly/3OJK4ls> 喘息治療薬のシェア調査
7. Crooks MG et.al. *ERJ Open Res*. 2023 May 9;9(3):00685-2022. シムビコート治療に適正のある患者は約50%
8. 神崎恒一. 内科 2022 March 10; 112(3):459-465. フレイル、サルコペニア対策
9. The Long-Term Oxygen Treatment Trial Research Group. *N Engl J Med* 2016; 375:1617-1627. 軽度低酸素血症のCOPDにおける在宅酸素療法臨床試験の頓挫について



## 生殖補助技術を用いた不妊治療症例



### 第2産婦人科部長 高橋 裕

1983年に日本で体外受精・胚移植による生殖補助医療が開始されてから40年が経過しました。2020年には国内で6万人以上が体外受精により出生し、2022年4月からの保険適用後は更なる増加が見込まれます。

当初、体外受精は卵管性不妊に対する治療法として開始されましたが、1992年顕微授精の導入により男性因子への適応が拡大しました。また2000年代に入り、胚培養技術や胚凍結技術の進歩により、多胎妊娠のリスクを軽減しつつ妊娠率を向上することが目標となりました。

今回は当科で生殖補助医療により生児を得ることが出来た3症例を提示いたしました。

生殖補助技術を用いても加齢による生産率の低下は避けられないため、適応があればできるだけ早期に治療をうけていただくことが大切です。また生殖補助技術を応用した若年がん患者の妊孕性温存の取り組みも進みつつあることを紹介しました。

## 富山赤十字病院における循環器診療の現状 ～地域医療に貢献するために～



### 第1循環器内科部長 賀来 文治

富山赤十字病院は明治40年(1907年)に創設されましたが、循環器内科は昭和59年(1984年)に、内科から独立した科として開設されました。以後、今日に至るまで約40年間、我々は地域の皆様に対して専門的でかつ安心、安全な循環器医療を提供すべく、昼夜を問わず頑張っております(現在は循環器内科4名の医師：橋本、東、勝田、賀来)。

不整脈治療ではアブレーションを年間約50例、ペースメーカー(両室ペーシングやリードレスペースメーカーも含む)や除細動器の植え込み術を年間約70例程度実施しております。冠動脈形成術に関しては年間約200例程度実施しており、難易度の高い症例に対しても、ロータブレーターやダイヤモンドバックなどの特殊な治療デバイスを駆使して良好な成績を得ることができています。末梢血管へのカテーテル治療(透析シャントへのVAIVT治療も含め)に関しても年間100例程度の症例に実施しております。心不全診療においては毎年300例以上の心不全患者さんの入院があり、Fantastic fourと呼ばれる4種の心不全治療薬や前述の両室ペーシング治療なども必要に応じて併用して、できる限り有効な治療効果が得られるように心掛けております。また、退院後の心不全再燃や再入院も大きな問題であり、患者さんが入院中に当院オリジナルの心不全管理表を多種職(医師、薬剤師、看護師、栄養士、理学療法士)で作成して、退院時に開業医の先生方への紹介状や返書に添えて同封させていただいております。心不全の再燃を減らすために、患者さんが退院した後の管理に役立てていただければ幸いです。最後になりますが、当院循環器内科やその関連のスタッフ一同は、地域の皆様により良い医療を提供したいという信念のもと、日々頑張っておりますので、今後とも何卒よろしくお願いたします。

# 病院歯科における歯科衛生士の役割

歯科衛生士 泉田 有美子

こんにちは！歯科衛生士の泉田有美子です。みなさんは歯科衛生士ってどんな仕事をしているかご存知ですか？歯科衛生士の最も重要な役割は、患者さんの口腔衛生処置、口腔衛生指導です。富山赤十字病院では通院されている患者さんの全身疾患は多岐にわたるため、個々の患者さんの状態に合わせた口腔衛生指導を行い、口腔ケアを行うようにしています。また、周術期やがん治療中の患者さんに対する周術期口腔機能管理を積極的に行っています。手術や治療前に口腔内の管理をすることで、様々な感染リスクや口腔トラブルを減らすことが出来ます。これにより術後の肺炎予防や、在院日数の短縮にもつながります。また、全身麻酔下での抜歯や外傷の手術などを行っており、そのアシスタントや器械出しなど、その役割は多種多様です。

当院のような、総合病院にある歯科口腔外科では、一般の虫歯治療や歯周病の治療に加え、難易度の高い埋伏智歯抜歯や抗血栓療法中の患者さんの抜歯、顎顔面外傷や炎症などの口腔外科疾患の治療を主に行っています。そのため、歯科衛生士もさまざまな全身疾患に対する知識が必要であり、偶発症の予防に努める必要があります。そこで私たちは昨年、日本有病者歯科医療学会の認定歯科衛生士の試験を受け、資格を取得いたしました。さらに、全身麻酔の手術件数も多いため、日本歯科麻酔科学会の認定歯科衛生士の資格も取得しました。いずれの資格も県内では取得している歯科衛生士は少なく、特に歯科麻酔科学会認定歯科衛生士は県内で初の取得（県内では当院2名、他院1名）となりました。

認定歯科衛生士とは、特定する専門分野において高度な業務実践の知識・技能を有すると認められた歯科衛生士です。全身麻酔や鎮静時の診療補助、有病者の方の歯科治療時の全身管理、急変時の救急処置などの、専門的な知識や技術が求められています。

実際の診療ではこれらの資格取得で得た知識と技術を生かして、患者さんの既往歴、内服薬を把握することでスムーズかつ安全に治療を行っています。また外来処置の際にはモニター管理を行うことでバイタルサインの確認、表情や歩き方も重要なサインとして見逃さない

ように心がけて患者さんと接しています。そして、全身麻酔下での手術の際には歯科医師の手術介助に加え、麻酔科医師の挿抜管の介助なども行い、患者さんのそばで不安に寄り添い、安全管理に努めています。

今後も、安心・安全な治療や口腔ケアが提供できるよう、スタッフ一同努力していきたいと思っています。



左から：泉田歯科衛生士、水本歯科衛生士

# 当院の言語聴覚療法について

言語聴覚士 浅生 大稀

当院には2人の言語聴覚士が在籍し、入院されている患者様に対してリハビリテーションを行っています。言語聴覚士は、ことばによるコミュニケーションに問題がある方や、摂食嚥下(咀嚼、飲み込み)の問題により安全に食事を摂取することが難しくなった方に対し、専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。まず、ことばによるコミュニケーションの問題は、脳卒中後の言語障害(失語症、構音障害)、聴覚障害、声や発音の障害など多岐に渡ります。加えて、認知・注意・記憶・行為などの高次脳機能障害を合併することも多く、社会生活や知的生活に支障をきたすことがあります。言語聴覚士は、このような問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言などの援助を行っています。

また、特に高齢者の場合は入院後に摂食嚥下障害を発症するケースが多くみられます。嚥下機能の改善を目的として、嚥下機能の評価や画像診断検査の結果に基づき、患者さん一人一人に適した嚥下食の選択や食事摂取する際のポジショニングの調整を行ったり、嚥下訓練や代償的な嚥下法の検討などを行っています。より良い支援を行うために、積極的に医師、病棟看護師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、理学療法士、作業療法士等と連携し、早期の段階で安全に食事摂取が出来るよう努めています。



左から：佐藤摂食・嚥下障害看護認定看護師、浅生言語聴覚士、齋藤言語聴覚士

“話すこと”、“食べること”は人生において重要な楽しみであり、食事・コミュニケーションは、人が人として生きていくうえで大切な生活の質に影響します。『患者様がその人らしく生活できるように』、患者様に寄り添ったリハビリテーションを提供できるよう、努めていきたいと思えます。



# 7月、8月の外来診療に関する医師不在日案内

## 7月

科名	医師名	不在日
眼科	辻屋 壮介	14日(金)
皮膚科	服部 奏子	26日(水) 27日(木) 28日(金)
外科	北野 悠斗	12日(水) 13日(木)
小児科	津幡 眞一	6日(木) 7日(金) 27日(木)
	足立 雄一	14日(金) 21日(金)
耳鼻いんこう科	赤萩 勝一	5日(水)
内科	黒川 敏郎	24日(月) 25日(火) 27日(木)
	川根 隆志	12日(水) 14日(金)
	望月果奈子	31日(月)
	石黒 千里	7日(金)
	橋本 泰樹	14日(金)

## 8月

科名	医師名	不在日
眼科	辻屋 壮介	14日(月) 25日(金)
小児科	津幡 眞一	24日(木)
呼吸器外科	宮津 克幸	29日(火)
耳鼻いんこう科	赤萩 勝一	2日(水) 25日(金)
	山田 貴裕	4日(金) 28日(月)
内科	黒川 敏郎	28日(月)
	賀来 文治	29日(火) 30日(水) 31日(木)
	川根 隆志	25日(金)
	仙田 聡子	7日(月)
	望月果奈子	1日(火) 2日(水)
	松永 貴弘	24日(木) 28日(月)
	若林 祐介	7日(月) 8日(火) 9日(水)
	日比野真也	18日(金)
産婦人科	桑間 直志	4日(金)
	岡田 潤幸	7日(月) 8日(火) 9日(水)
	藤間 博幸	14日(月) 15日(火) 16日(水)
	高橋 裕	21日(月) 22日(火) 23日(水)
泌尿器科	長坂 康弘	14日(月) 15日(火) 28日(月) 29日(火) 30日(水)
	山本 篤	18日(金) 21日(月)



※不在日には、代診を立てております。

## 患者支援センターからのお知らせ

### 「第83回地域医療連携の会」

日時：令和5年9月7日(木) 午後7時から

場所：ANAクラウンプラザホテル

講演：金沢大学 医薬保健研究域医学系

循環器内科学 教授 高村雅之 先生

「心不全の病態～病診連携を含めて～」



※詳細は後日お知らせします。みなさまの参加をお待ちしております。

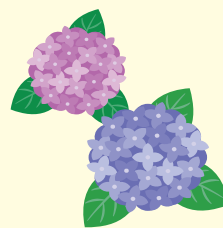
感染防止対策を十分に行った上での開催となります。ご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

### 編集後記

紫陽花の色が美しく映える季節となりました。

新型コロナ5類移行に伴い、新聞やテレビでも緩和による賑わいが報道されています。振り返ってみるとコロナ禍に長女は社会人となり、次女は大学へ進学しました。いずれも卒業式、入学式と参加できず、親として残念でなりません。コロナが緩和されたことで、県内でもお祭りやイベントなど再開され、活気が戻りつつあります。大学生の娘もここぞとばかり青春を謳歌し始めているようで、微笑ましく見守っています。

さて、私たち医療者にとってはまだまだ喜べる状況にありませんが、引き続き感染対策に努め、患者様、御家族が安心して療養できるよう環境調整に努めていきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。  
(患者支援センター 看護係長 佐藤 真由美)



紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

**富山赤十字病院**  
**患者支援センター**

TEL : 076-433-2492 FAX : 076-433-2493

e-mail : byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp

夜間・休日のお問い合わせは…TEL : 076-433-2222(代表)

Fax : 076-433-2410(夜間・休日のみ)